



なかとんべつ

一流の、中頓別づくり

—ほんとうの豊かさを分かち合うために—



「ともに語り、考え、支え、励ましあって」

天北厚生園の利用者と家族、職員が地域の人たちとひとときを過ごし、お互いの心が通じ合うようにと、「ともに語り、考え、支え、励ましあって」を今回のテーマに、第7回「ふれあいフェスタ2004」が11月6日(土)に開催されました。会場となった町民センター大ホールに所狭しとならんだ生産物の即売や木工・籐手芸の体験、まいたげご飯やたい焼き、リサイクルマーケットコーナーなどが、たくさんの人で賑わいました。

戸籍だより

10月1日～10月31日受付分

えんぐみ

浜頓別町 (10月1日) 字中頓別
豊田 勝則、藤川 小百合。
字中頓別 (10月16日) 字中頓別
岡本 和之、田村 香織。

おくやみ

字中頓別 藤井 ツルエさん
(83歳) 10月 7日

人のうごき

(平成16年11月1日現在)
世帯 1,048 (+ 2)
人口 2,395 (+ 2)
男 1,175 (+ 2)
女 1,220 (± 0)
()内は前々月対比



広報誌なかとんべつ 11月号

Vol.556

発行 2004年11月10日

編集 中頓別町総務課総務グループ

〒098-5595
北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172-6
TEL 01634-6-1111
FAX 01634-6-1155

印刷 有限会社 天北印刷工業

この広報誌は再生紙を使用しています。

It is good that we have lived in Nakatombetsu
and we would like to live there for long.

—住んでいてよかった これからも住んでいたい—

喪服脱ぐ挿したるままの赤い羽根 大山不死人	津軽発お国訃りのりんご売り 高橋 恵翠	コーヒーの沸々とせし露寒し 高橋 妙子	霜の朝一枚羽おり動き出す 平田 栄珠	この道や牛飼う一戸草紅葉 菅原 貞子	窓を打つ雨音重く秋の暮 山崎 静女	そば畑刈り跡染めて降る夕陽 東海林海峯	そは畑刈り跡染めて降る夕陽 武田 雄峰	鳶紅葉空のサイロにしがみつ き	やまなみ吟社 十月句会
--------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	------------------------	------------------------	--------------------	-------------

ご寄付ありがとうございます

平成16年3月15日～同年10月20日受付分

庁舎建設寄付金として	
・ダイシン設計株式会社 様	50万円
・有限会社天北印刷工業 様	10万円
一般寄付金として	
・稚内市 藤田喬 様、藤田清 様	10万円
・安斉正博 様、安斉尚徳 様、 内田直代 様、安斉好明 様	10万円
・高木幸男 様	3万円
林道用地として	
・赤川亀造 様 字藤井252-4他	993㎡
・安藤 綱 様 字藤井67-1他	3,296㎡
・嘉山建設株式会社 様 字豊泉146-80他	5,897㎡
・石井広幸 様 字敏音知60-3他	1,217㎡
・家入 隆 様 字敏音知57-2	1,513㎡
・有限会社誉林業 様 字豊泉47-1	20,661㎡
・近内誠一 様 字上頓別220-6他	452㎡
公共用地として	
・吉田孝一 様 字松音知40-23他	1,088㎡
庁舎備品として	
・株式会社ドーコン	ベビーカー1台
道路用地として	
・畑本隆雄 様 字中頓別130-5他	216㎡
・宮田 登 様 字藤井125-9他	1,975㎡
寄贈品	
・大崎上島町 福本正人 様 大崎上島町航空パネル写真2点	

編集後記

天北三町村合併協議会が破談となり、当
面は単独の道を選択しなければならなくな
った。財政状況の悪化は気持ちが減入るこ

とばかりだが、「ぼろは着てても心は錦～」
と広報誌くらいは明るい話題を提供してい
きたいと思った。(カン・ナガ)

11月8日、猿払村離脱で天北三町村合併協議会が解散

振り出しに戻って、将来のあり方を検討へ



11月8日付けで速報を全戸配布しましたが、今年3月に発足した天北三町村合併協議会は、猿払村の離脱で現行合併特例法期限内での合併が困難となり解散しました。協議会では大部分の作業を終えつつあり、あと4回の会議ですべての協議が終わる予定でした。突然の解散で、中頓別町も当面は単独で、今後ますます厳しくなる財政状況のなかで生き残って行かなければなりません。

合併問題は、これで白紙に戻りました。今後は、現在の状況や将来の見通しを的確に整理し直し、冷静に分析した上で、あらためて今後のあり方を検討していくこととなります。

当面は「重大な決意」で行財政改革に取り組まざるを得ませんが、将来の見通しが極めて不透明な中、町民が納得できる解決策を模索していくこととなります。

合併協議会の役割は「JJJ」あったのか？

昨年11月、中頓別町は浜頓別町、枝幸町、歌登町と4町で南宗谷地域任意合併協議会を設立し、「平成の大合併」という大きな流れのなかで、現行の合併特例法期限を視野に入れた具体的な検討をはじめました。

それからほぼ1年が経過しました。途中で合併協議の枠組みが二転三転し、最後の枠組みとなった協議会も猿払の離脱で解散。当面は「単独で生き残る」道を歩くことになりました。

最初の南宗谷地域任意合併協議会は、新町の事務所の位置などで結論が出せないまま解散。ここから猿払村が加わる際、その判断するための資料づくりを行う、最終判断にあたっては住民の意向を踏まえて行う、ことなどが基本的な前提となりました。

ここに猿払村が加わる際、その判断のための資料づくりを行う、最終判断にあたっては住民の意向を踏まえて行う、ことなどが基本的な前提となりました。

こうした経緯から考えても、天北三町村合併協議会は、国の手厚い財政支援などがある現行特例法の期限内での合併を前提にした上で、協議会そのものが合併是非を判断するのではなく、住民が合併の是非を判断できる資料を作り上げるため、新しい町がどのような姿になるのか、そこで生活する住民の暮らしがどう変わるのかを明らかにしていく役割を負っていたこととなります。

もともと時間がない中での出発で、ある程度限界があることは明らかでしたが、すでに合併の情報を集めながら、効率的

し、2町ずつに分かれました。現行特例法の期限が迫っていることもあり、中頓別町と浜頓別町は3月に「天北二町合併協議会」として、また枝幸町と歌登町も4月に「枝幸歌登合併協議会」として、それぞれ法定協議会を設立して新しい道をめざすことになりました。

その後「天北二町」は、4月から稚内市などの協議から離脱した猿払村が加わって「天北三町村」となり、総面積で約1,400km²、人口約1万人の新しい町への合併を検討することになりました。

浜頓別町との2町ではじめた段階で、この合併協議会は、現行合併特例法期限内の合併を

効果的な事務を進めていくことが求められました。厳しいスケジュールであり、当初の予定どおり進めることができない点もありましたが、それらを修正しながら、何とか予定どおり12月にはすべての項目について協議を終わらせることができる見通しとなっていました。

失った選択の機会、住民投票に至らず

協議会が予定どおりその役割を果たした場合、構成三町村はそれぞれに合併した場合の新しい町の姿を踏まえて合併の是非を判断していく次の段階へと進む予定でした。その方法についてまでは決めていませんでしたが、今月に入ってから中頓別町が住民投票の実施を打ち出し、他の2町村もこれに足並みを揃えて実施できる体制が整いつつありました。

しかし、合併した新しい町を選択するか単独で自立の道を進むのか、歴史的にも大きな選択の場面を想定しながら残りほん

合併に関するこれまでの経過

- 平成13年
- 8月 「南宗谷で町村合併を考える懇談会」を開催。中頓別町、浜頓別町、枝幸町、歌登町が参加。
「市町村合併情報」 1～ 4を配布
 - 10月～「広報なかとんべつ」で「市町村合併を考える！」を連載。
 - 11月 庁内に「中頓別町合併問題研究会」を設置（15年1月まで3回開催）
 - 11月 「南宗谷町村合併問題勉強会」（上記4町で構成、助役・担当課長）を設置。
- 平成14年
- 1月 「南宗谷町村合併問題勉強会」に猿払村が参加。
 - 6月 「南宗谷町村合併問題勉強会」が結果報告書を提出。
「市町村合併情報」（第1号～第4号）を作成配布。
 - 11月 地域懇談会で「市町村合併問題について」懇談。
- 平成15年
- 4月 第27次地方制度調査会が中間報告公表。
 - 7月 中頓別町、猿払村、浜頓別町、枝幸町、歌登町5町村で「南宗谷地域合併問題懇談会」（以下「懇談会」と略）を設置。
 - 7月 上記5町村で助役、担当課長級の「南宗谷地域合併問題検討会」を設置
 - 10月 第3回懇談会を中頓別町で開催。任期協議会の設立を協議。
 - 11月 地域懇談会で再び「市町村合併問題について」懇談（14会場181名出席）
 - 11月 懇談会構成町村のうち猿払村を除く4町で「南宗谷地域任意合併協議会」（以下「任意協議会」と略す）設立。
 - 11月 第27次地方制度調査会が最終答申。
 - 12月 「町村合併問題を考える町民討議資料」を全戸配布
- 平成16年
- 1月 「町村合併問題を考える町民討議資料」を全戸配布
 - 2月 「町村合併問題を考える町民討議資料」を全戸配布
 - 2月 町村合併問題に関する町民討論集会（2回）
 - 2月 第4回任意協議会で、解散を決定。
 - 3月 合併問題に関する町民説明会（4地区）
 - 3月 「町村合併問題を考える町民討議資料」を全戸配布
 - 3月 町村合併問題に関する討論集会（5カ所6回）
 - 3月 中頓別町と浜頓別町で「天北二町合併協議会」（法定、以下「協議会」と略す）を設立
 - 4月 第2回協議会。新設合併、現行合併特例法期限内での合併、財産の取扱いなどを決定。
 - 4月 第3回協議会で猿払村が加入して「天北三町村合併協議会」へ。
 - 5月 第4回協議会。議会議員は18名以内で特例措置は使わないことなどを決定。
 - 6月 新町建設計画のためのワークショップを開催。
 - 6月 第5回協議会。議会の選挙区設置、農業委員会の取扱いなどを決定。
 - 7月 第6回協議会。庁舎の「総合支所方式」などを決定。
 - 8月 第7回協議会。使用料・手数料の調整方針などを決定。アンケート調査結果を報告。
 - 8月 第8回協議会。各種事務の取扱いなどを協議。
 - 9月 第9回協議会。新町の事務所の位置で協議。3町村立両院の存続などを決定。
 - 10月 第10回協議会。事務所位置を「浜頓別町」に、新町名称を「天北町」に、旧町村に「地域協議会」を置くことなどを決定。
 - 10月 第11回協議会。議会議員選挙区定数を「猿払6、浜頓別7、中頓別5」とすることなどを決定。各種事務事業、使用料・手数料の詳細などについて協議。
 - 11月 「町村合併とわたしたちの暮らし」新町将来構想」を全戸配布
 - 11月 第12回協議会で猿払村が離脱し、解散。
 - 11月 地域懇談会「町長がおじゃまします」で合併問題を報告（13会場）

に時間がかけられました。最終的には、10月2日の第10回協議会で猿払村が折れ、「事務所は浜頓別町」とすることに決着つきましたが、残る2町村にも総合支所が置かれることで事務所所在地以外の町村も急速に衰退しない配慮が加えられる結果になっていました。

また、もうひとつ調整に時間がかかった協議会議員の選挙区定数の配分では、逆に浜頓別町が猿払村に配慮する形で、総数18人のうち半分を均等割、残りを人口割とする案でまとまり、猿払村6人、浜頓別町7人、中頓別町5人で決定されました。ただ、9月の定例議会における森猿払村長の「新法での合併」発言がマスコミでも報じられたことで協議会の先行きを案ずる声も聞こえ始めていました。事務所位置の決定以後、協議会の雰囲気にも明らかな変化が生じた

の一時となっていた大詰め作業を進めていた合併協議会が、思わぬ事態で解散せざるを得なくなったわけです。

猿払村が緊急提案した「新法による合併」は、三町村合併協議会の根幹を覆す意味を持っていました。資料不足、時間不足が理由とされていましたが、すでに決定した内容への不満も大きな要因になっていていることは、ここ数回の協議会における猿払村委員の発言などからも明らかでした。

中頓別町に残された選択として、浜頓別町との2町でふたたび現行特例法期限内での合併をめざす道はなかったのか？ 事務レベルでは、もともと日程を組み直すことができる最終期限を9月と想定しており、猿払村もそのことは理解していましたが、この場合でも住民参加型ワークショップなどでまとめた将来構想と同じ手法でやり直すことなどは省かざるを得ないなど、本当のぎりぎりの日程と言えました。いずれにしてもその期限はすでに大幅に過ぎており、物理的に不可能な日程となっていたことになりました。

何より、1年前に4町で始まった合併協議が2町となり、さらに3町村へと変わってきた経緯を踏まえると、残り数ヶ月の段階で住民との意見交換や議会における十分な議論も経ずに再び2町でやり直すということは考えられない選択肢でした。

野邑町長は、協議会休憩中に中頓別町委員で猿払村離脱に関する取扱いを協議する際、「現行特例法での合併がなくなった現段階では、一度、すべてを白紙に戻して、じっくりと将来のあり方を考えていくことが望ましい」という考え方を示し、全委員の理解を得ました。

本町が最終的にめざした住民投票は、分権型社会における地域自治、住民自治の視点からも極めて大きな意味を持っていました。議会制民主主義と住民投票の関係ではさまざまな議論がありますが、市町村の合併という極めて重大な選択の場面では住民投票を実施する事例が増えています。構成町村のすべて

が同時に住民投票するケースは全国的にもなく、合併が自立かをめぐって画期的な三町村住民による選択の機会が用意される可能性が高かっただけに、協議会の解散によって、こうした住民の選択の機会も奪われる結果となったことは残念でした。

事務所の位置、病院など財政問題でズレ

天北三町村合併協議の成否を分けた焦点のひとつは、やはり新町事務所役場の位置でした。猿払村は、事務所所在地と病院などとの機能分担として、

奮闘したスタッフ。しかし、結果は・・・

合併協議会の実務は、各町村から派遣された6名の事務局（10月から7名、他に臨時職員1名）が担いました。事務局長は本町から派遣した遠藤義一総務課参事。事務事業の調整を主に担当した吉田智一主査のほか他2町村の派遣スタッフと力を合わせ、経験したことのない合併事務を切り盛りしました。

それぞれに異なる三町村がひとつになることのために必要な作業は膨大です。利害が絡み、さまざまな局面で意見も対立していた上、1500を超える事務事業では三町村の関係職員を招集して調整方針案をまとめなければならぬなど、多くの困難がありました。しかも、与えられた時間が標準的に必要とさ

れる期間の半分足らずでした。

他の合併協議会と比べても人数が少ないなか、事務局は大奮闘して合併協議に必要な協議が終わる見通しを立てるところまで作業を進めてきました。

しかし、最後まであと一息のところ突然の協議会解散。最終的に合併するかしないかの判断の結果ならともかくも、住民の判断材料を提供する資料づくりの完了目前でその役割を失つ

ことになってしまいました。



新町の事務所の位置となるのが決まっていた浜頓別町役場。この事務所位置の問題も協議会解散の原因となったのか？

新合併特例法とは？

- 1, 平成17年4月1日以降に合併申請して平成22年3月31日までに合する場合に適用される法律です。
- 2, 総務大臣が定める基本指針に基づき、都道府県が「市町村の合併に推進に関する構想」を策定することになります。
- 3, 合併に関する知事の役割は次のとおりです。
 - 【合併協議会が設置されていない場合】
 - ・合併協議会の設置を勧告することができます。
 - 【合併協議会が設置されている場合】
 - ・関係市町村が申請した場合、「合併調整委員」を任命して、「あっせん」「調停」を行います。
 - ・申請がない場合でも、「合併協議推進勧告」を行うことができます。
- 4, 合併に関する障害除去の特例措置は次のとおりです。
 - 地方税の不均一課税、議員の在任特例、3万人で市に昇格できる特例等はそのまま残ります。
 - 地方交付税に関する10年間の合併算定替（1）は、段階的に5年間に短縮されます（激変緩和措置は5年間そのままです）
- 5, 合併特例債（2）は、新法では廃止されました。

1 合併算定替え・・・

地方交付税は、必要な行政施策を実施するための財源調整、財源保障機能を持ち、財政力の弱い自治体に交付される制度です。合併した場合の地方交付税は、一般的に合併前の市町村ごとに計算された地方交付税の合計額を大幅に下回ることになります。合併算定替えとは、合併しても旧市町村ごとに合併しなかった場合を想定してそれぞれ交付税額を計算して合計額を保障するしくみです。

2 合併特例債・・・

合併市町村のまちづくりのための建設事業に対する財政措置で合併後10年間に行われる事業に適用され元利償還金の70%が地方交付税で措置されます。その他、一定の基金造成目的の起債でも、元利償還金の70%が措置されるしくみがあります。

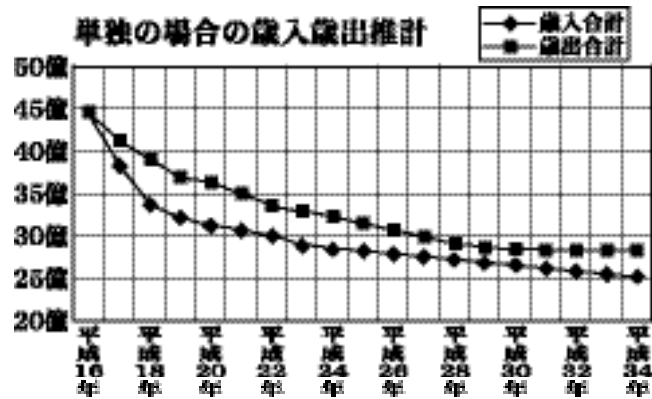
市町村に対して都道府県が合併推進の計画を立て、必要に応じては斡旋や勧告を行うという規定があります。北海道では道州制、支庁改革などと合わせて市町村合併の問題を総合的に検討していく必要があると考えられますが、北海道としてどう取

り組んでいくのかは今の段階では明らかになっていません。ただ、どんな場合であっても、地方自治の精神に照らして、合併するかしないかの最終判断は市町村にあることには変わりがなく、合併するか、より行財政改革を進めて小さな自治を守つ

ていくのかを選択していくことになりま。先日、全戸に「町村合併とわたしたちのくらし」を配布し、そのなかで合併、単独それぞれの財政見通しも示しました。当面は単独と決まった現時点において、どうしたらこの先を生き

残っていくのかの答えを見つけたいこととなります。

かつてない町存亡の危機と云ってよく、重大な決意で行財政改革を断行していかなければなりません。また、さまざまな住民ニーズに対応していくため、住民と行政の協働による新たなしくみを創り上げていくことが求められます。町は、年明けには当面進むべき道筋を示した「当面の自立プラン」を策定して公表する予定です。



ことは多くの出席者が感じていたことでした。協議会では、猿払村委員から三町村の財政状況比較のなかで病院の赤字処理や税などの未収金、基金の流用などを不安視する発言もあり、この点なども離脱に至る原因になっていたと推察されています。

膨大な労力を費やししながら 未完に終わった合併協議

合併協議に関しては、4月以降、住民には「合併協議会だより」で経過を報告してきていますが、その舞台裏では膨大な事務作業を積み上げてきています。各町村から2名ずつ（10月から浜頓別は3名）の職員を事務局に派遣し、一般的には22ヶ月は必要といわれる日程をわずか12ヶ月でまとめるために精力的な事務作業をこなしてきています。

11月8日時点では協議会の開催は12回ですが、その他に新町建設、地域自治組織、新町名称の3小委員会があり、合わせて25回の会議を開催しています。

事務部門では、協議会の下部機関である幹事会（助役など各町村3名で構成）が16回、さらに1500を超える事務事業について検討するため9専門部会が設置され合計で97回の会議が開催されてきました。

これらの膨大な事務作業も、すべては住民による選択の機会に向けて準備されただけに、合併協議会解散で、現在はその成果が虚しく机上に積まれたままとなっています。

今後の合併協議はどこへ？ 当面単独で生き残り策模索

振り返って考えると、現在進められている平成の大合併とは何だったのか？

地方分権を推進していくため、基礎自治体である市町村がその「受け皿」としての高い自治能力を求められるようになったことから市町村合併の問題が取り上げられるようになりました。しかし、実際には厳しい財政状況の中で構造改革が進められ、財政力の弱い地方自治体の財源



病院存続の問題は、住民にとってもっとも高い関心事でした。しかし、この赤字がもたらす財政問題も深刻。現状のまま新町に引き継ぎ、合併後、何らかの形で旧三町村に医療機関を残すことを前提に見直すことで合意しましたが、三町村の認識のズレは最後まで埋まりませんでした。

保障機能である地方交付税を大幅に削減するという形で、市町村合併推進の圧力が加えられてきました。

今後進められる「三位一体の改革」でも、地方交付税のあり方が問われており、小規模な町村を巡る将来の見通しは非常に厳しい状況が続いていくことは間違いありません。

現行特例法では合併しないで自立宣言をした小規模町村も多くありますが、その実態としては、新しい合併特例法が施行されたこともあり、長期的な展望が立ちにくい中で、当面は「自立」という方針を打ち出したところが多いというのが実態です。新合併特例法では、合併しな

旧役場庁舎解体。長い間ほんとうにお疲れさまでした

中頓別の厳しい気候に耐えながら48年間、町の歴史とともに歩んできた旧役場庁舎が取り壊されました。取り壊し工事は10月1日頃から始まり、10月22日11時半頃ついに、その建物としての姿を失いました。

中頓別町史によると、この旧庁舎は昭和28年新築工事着手予定でしたが、同年は冷水害による農作物の被害が大きかったことから、翌29年に総額750万円で行工事に着手。工費の不足分は町有林の売却や、営林署に材



の払い下げを求めながら進められ、木造モルタル二階建て事務室・付属建物合わせて858㎡で昭和30年7月29日落成式が行われたと記されています。

今年2月始めまで使われていたこの旧庁舎は、床や柱が曲がっていて、職員の机は脚に板などを挟んで水平をとらなければならぬほどでした。しかし、旧庁舎が崩れ落ちる瞬間を見ていた職員の胸に去来する思いは複雑で、寂しいという声も多く聞こえました。

大崎上島町を訪問してきました

平成16年10月26日から4日間の日程で、大崎上島町を訪問してきました。町長を団長として町民の方々9名に参加していただきました。天候も穏やかで暖かかったですが、それ以上に町の方々の暖かい歓迎を受けました。

本町開拓の祖である榎原民之助氏の墓参りをし、役場の方々に火力発電所、ひらめの養殖場、資料館、みかん農園などの案内をしていただき、姉妹交流を行っていることも、本町と全く異なる部分を視察できたことは大変勉強



強となりました。交流を深めた9名の方々も有意義な旅行であったと思います。

(総務課 亀岡一人至)



収穫の秋に賑わう

道の駅ピンネシリで10月3日、天候にも恵まれて第7回きのこまつりが盛大に開催され、たくさんの方が訪れました。

会場は、小頓別やろう会のきのこをはじめ、町の特産品、中頓別農業高校が実習で育てた農産物や加工品を販売し大盛況でした。また、宗谷森づくりセンターが森林・林業の相談や紙すきなどの親子体験コーナーを設置し、多くの人が関心を寄せて集まり、好評でした。



中頓別に生きる

寿大学が9月22日、町で取り組んでいる地元学の手法を使った町づくりについて講演会を開催しました。講師は町職員で総務課の北村主任。現在取り組んでいる地元学を紹介しながら「中頓別町は現在、4人に一人が65歳以上の町。この高齢者の方々が持つ生活の知恵や体験を次の世代に伝え、引き継いでほしい。」中頓別が元気になるためにみなさんの力が必要」と話し、町づくりへの参加を呼びかけました。



動物をよく見てみよう

旭川在住の絵本作家あべ弘士さんによる講演会「どうぶつたちってそうだったんだ！」が10月20日、こども館で開催されました。あべさんから、「象にスイカをあげたら、若い象は足で踏みつぶしてジュースになってしまったが、年配の象は足で4等分にきれいに割って食べた」などの話に、子ども達もびっくり。旭山動物園に勤め、動物に身近に接していたあべさんならではのお話にみんな大喜びでした。



消費税の届け出はお済みですか？

稚内税務署

納税義務が免除される前々年(「基準期間」といいます。)(における消費税の対象となる収入(「課税売上高」といいます。))の上限が3000万円から1000万円に引き下げられました。個人で事業をされている方が平成15年分の課税売上高が1000万円を超えると、平成17年は課税事業者となり、消費税の申告書を提出しなければなりません。(申告の必要な方を「課税事業者」といいます。)

その場合は、速やかに「消費税課税事業者届出書」の提出が必要となりますので、提出もれないようご注意ください。

詳しくお知りになりたい方は、最寄りの税務署又は税務相談室にお尋ねください。

札幌国税局ホームページからも改正消費税の概要についてご覧になることができます。

<http://www.sapporo.nta.go.jp/1/kaisetsuyouhizei/index.htm>

ホットな情報通信

~Learning for life~

よりよい病院を目指します

中頓別町国民健康保険病院では住友院長のもと、町内外の住民から信頼される病院になるために運営方針を策定しました。この中ではより一層利用者の立場に立ったサービスを提供するため、病院理念のほか、看護・介護サービスの向上を目指す看護理念と看護方針に基づき病院運営を進めていきます。また、病院スタッフが丸となって病院づくりを進めるためにサービス向上委員会を設置し病院のレベルアップを図ります。

中頓別町国民健康保険病院運営方針

病院理念

1. 公立病院として中頓別町民ならびに近隣地域住民が安心して暮らすため、信頼される病院となる。
2. 地域住民の健康保持・増進のための中心的な役割を果たす。
3. 医療従事者としての自覚を持ち、知識・技術の研鑽に励み、働き甲斐のあるプロ職場となる。

看護理念

1. 私たちは、患者様に満足していただける患者様本意の看護・介護サービスの提供に努めます。
2. 私たちは、最適・最良のサービスを提供することにより、患者様の健康と幸福の実現に寄与します。
3. 私たちは、医療人としての倫理を守ります。

看護方針

1. 自分が患者様であったら”どうしてほしいか”を考えてお世話しましょう。
2. 一人一人の患者様は私たちより長い人生経験のある方です。出会えた関係を大切に、私たちが老いたときに”そうしてほしい”と思う方法で接しましょう。
3. やさしい気配り・心ある支えが生きる力になることを考え、明るくお世話しましょう。

活動の広場

高齢者教室で交流会を開催しました。

9月29日(水)に中頓別町民センターで、中頓別町高齢者教室寿大学と浜頓別町高齢者教室福寿大学の交流会を開催し、中頓別町から72名、浜頓別町からは、25名が出席しました。

午前の部では、保健センターの前田保健師による健康講座が開催され、いきいきと中頓別で暮らしていくために、一人ひとり何ができるかを考えました。昼食懇談会では、中頓別町女性連絡協議会の方々にお吸い物をつくっていただき大変好評でした。

午後の部では、カラオケや詩吟、舞踊など、お互いの町の芸能人による多彩な芸が披露され、交流会に花が咲きました。

第2回チャレンジクラブを開催しました。

10月2日(土)に中川町エコミュージアムセンターで、古代の化石レプリカづくりに、中頓別小学校の児童8名が参加しました。

最初に中川町自然誌博物館を見学し、そこでは、恐竜の化石やアンモナイトなどの歴史や研究の成果など様々な話を聞きました。

そのあとに、なぜ化石のレプリカづくりをするのか、その理由と意義についての説明があり、実際にレプリカづくりを体験しました。体験した子どもたちの感想を紹介します。

中頓別町国民健康保険病院サービス向上委員会

地域医療を担う医療人としての自覚を持ち、幅広い層の人々に平等に奉仕し、地域にあっても都市部に負けない地域に根ざした医療環境を職員一丸となって実践します。

地域の人々に広く支持・慕われる病院の実現を目指します。

「変わらなきゃ病院！」の意識を持ち、時代の要請にあった病院づくりに努めます。

「変わらなきゃ病院！」のためのこんな はない

1. こんな医師はいらない
 - ・基本マナーがなっていない
 - ・規則・時間を守れない
 - ・協調性に乏しい
 - ・患者様に誠実でない
 - ・知識・技術の向上意欲が乏しい
 - ・総合的に患者様を見られない
 - ・謙虚さが無い
 - ・働かない

2. こんな職員はいらない
 - ・病院理念を知らない、理解していない
 - ・全体が見えず自分の意見を主張する
 - ・会議に参加しない、発言しない
 - ・自己主張が強すぎる
 - ・部下をかばいすぎる
 - ・自分に甘く他人に厳しい
 - ・変化を好まない
 - ・医療・福祉政策の動向を知らない
 - ・働かない
 - ・仕事が遅い、不正確

国民健康保険病院からのお知らせ

地域住民の皆様が信頼される病院になるために病院運営方針を策定し、全職員が様々な職場委員会に所属して改善に取り組むことといたしました。

住民の皆様にお知らせするとともにご意見をいただきながら今後の病院運営に活かしてまいりたいと思っております。病院玄関、二階ナースステーション前に設置しております投書箱のほか、電話、手紙でも結構ですのでご意見をお寄せください。



いろんな化石があっっておもしろかったです。中川でこんなにいっぱい化石がほれるなんてびっくりしました。(原坂彩花)



本物の化石を目の前で見て、さわって、変な形とかもあったし、ようきの中に保存されているのもあったのでびっくりしました。(下山英恵)



化石のレプリカづくりの時、粉と水をまぜ10分くらいたったらブルブルできもちよくてビックリしました。(古谷詩織)



色を塗るのがとてもたいへんだった。(桑田和軌)



貝が化石になったら白くなるのでびっくりしました。(中川大城)



化石の形を取る粉などの分量を、はかたりたり、大変だったけど、できると、本物のようになっていたので、びっくりしました！楽しかったです！(小野咲)

化石レプリカづくりにいけなくて残念でした。またきかいがあればいきたいです。(上道健也)



化石レプリカ作りをして、どういう感じになるか、わかりませんが、楽しくできました。(布施郁美)

ぼくは、野球の試合でいけなかったけど、もし行っていたら、化石作りは、楽しかったと思います。(遠藤光平)

いきたかったのに残念です。きかいがあつたらいきたいです。(桑原侑平)



中農高だより

収穫祭

今年も収穫祭が10月3日(日)「道の駅ピンネシリ」で行われた「きのこ祭り」に参加する方たちで行われました。このお祭りに参加して行うのは今回で3回目になります。アイスクリーム、チーズ、ヨーグルト、ミニシクラメン、いも団子、きのこスープ等、授業で製作したものを多く販売しました。昨年よりも多くの町民の方に来ていただき、普段の活動を見てもらうことができたと思います。当日は大盛況で早い時間に売切れてしまったものもあり、「美味しいね」「頑張っているね」と多くの方から声をかけていただき、生徒もさらに力を入れて販売しました。「楽しかった」「買って欲しくて嬉しかった」との声もあり、充実した活動をする事ができました。これからも多くの行事に参加し、町民の方々と交流を深める活動を行ってきたいと思います。



農業クラブ全国大会

10月20日～21日に神奈川県で行われた、農業クラブ全国大会(農業鑑定競技生活科学コース)に3年生成田和恵さんと一緒に参加してきました。初めての全国大会でしたが、それほど緊張もせず競技に参加することが出来ました。今まで勉強してきた問題が出題され、勉強した成果を発揮することが出来ました。しかし、簡単な問題を間違えたりして入賞することは出来ず残念な思いをしました。今回全国大会に出場し「来年もまた出場したい!!」という気持ちになりました。来年は岐阜県で行われるので是非参加できるように、頑張りたいと思います。

農生会副会長 栗林 信子

Salmon

In my home state of Oregon, autumn is an important part of the year. During this time, just like in Japan, the salmon begin to swim into the rivers of America. Yes, there are also salmon in America. Actually, there are salmon all over the world, and not just in Japan. In Oregon, the salmon have always been a very important part of Native American history, life and culture. To this day, many Native American tribes of the Northwest have celebrations during the fall in honor of the salmon entering the rivers. The Native Americans of the Northwest have also created artwork of salmon for hundreds of generations. These drawings are very unique and popular with tourists that come to visit the Northwest of America, Canada, and Alaska. There are also many ancient Native American legends about the salmon that are passed down to their children. These stories tell of how the salmon not only helped the people to survive, but also how the salmon helped to create the world in ancient times. Unfortunately, today the salmon populations of the world are threatened by pollution and over-fishing. That is why it is important for all peoples of the world to work together as one in creating a solution to this problem. Nature will never be the same if we allow this great fish to disappear from our world.

サケ

私の出身であるオレゴン州では、秋は1年の中で最も大切な季節です。秋になると、アメリカでは、日本と同じように、サケが遡上し始めます。アメリカにもサケがいるのです。実際に、サケは日本だけでなく世界中にいます。オレゴン州では、サケはアメリカ先住民の歴史、生活、文化において大変重要な役割を持っているのです。今まで、北西部に住むアメリカ先住民の多くが、秋になると川を遡上してくるサケに敬意を表してお祝いをしています。また、北西部のアメリカ先住民は何百世代にもわたってサケの絵を創作しています。この絵は大変ユニークで、アメリカ北西部、カナダ、アラスカを訪れに来る観光客に大変人気があります。また、サケにまつわる古代アメリカ先住民の伝説もあり、それは子孫に受け継がれています。この物語は、サケが人々が生きていくのを助けたことだけでなく、サケが古代において世界を創造するのに役立ったことについて述べています。不運にも、今日世界のサケの数は、汚染や釣り過ぎによって脅かされています。そこで、世界の全国民がこの問題を解決できるよう、1つになって取り組むことが大切です。もし、この偉大な魚が世界から消えてしまったら、今と同じような自然は存在しないでしょう。

小頓別小中学校だより

「一致団結」

10月24日に行われた今年度の文化祭は、例年にも増して楽しい内容となりました。音楽では、まず小学2～4年が3曲をメドレーで披露しました。2曲目の『虫の声』では、8人全員が歌詞にはない音を独自の道具と方法で発表しました。小学5～6年の4人は笛の四部合奏、中学生の5人は東南アジアの民族楽器で、リズム感の限界に挑戦。最後は、小5～中3の合奏でしめくくりました。

劇は、小学校の喜劇「どろぼう学校」に続いて、中学校が



「花咲じいさん」を英語で発表しました。見事な演技はもちろん、英語のせりふ回しに大きな拍手をいただきました。もちろん、フォレストさんもニコリ。PTAの合唱と教職員の劇のあとは、小学生の「一輪車カーニバル」。体育の学習や休み時間、間に地道に練習を重ねた結果が存分に発揮され、児童の高度な演技をお見せすることができました。今年度初めて乗れるようになった児童の演技にも大きな拍手と歓声が送られました。文化祭の最後は、すっかり恒例になった中学生の「YOSA KOI」。今回も本校OBの指導を受け、息のあった見事な踊りを楽しませてくれました。文化祭のあとは、地域のみなさんと一緒に「秋食べ会」となりました。今年のメニューは、PTAで準備したイモ団子のみならず、キノコ汁・カボチャ団子のお汁粉。遠くから来た山村留学生の保護者のみなさんも、北海道の秋を満喫しました。

今月のおすすめ図書

◀ 『使わなくなった日本語【時代劇篇】』平土大学編（経済界）



時代劇でよく出てくる懐かしい言葉。あなたは、どれだけ判りますか。
「すし」と「どつこい」「押っ取り刀」「知らぬ顔の半兵衛」「小春日和」「西の市」

◀ 『釈迦の女』澤田ふじ子（幻冬舎）



京の由緒ある寺・知恩院の本堂の回廊で、誰に咎められることもなく毎日寝転がっている女。彼女の目的は何なのか。公事宿の居候・田村菊太郎の活躍を描く時代小説シリーズ第10弾。

◀ 『壊れるもの』福澤徹三（幻冬舎）



妻と娘との家族三人暮らし、四十歳すぎて手に入れた郊外の一軒家。大きな不満はない。ごく一般的な、ささやかな幸せ。しかし、そんなありふれた日常に生じた一点の染みが、突如、絶望の底なし沼となって男を呑み込んでゆく。

◀ 『熱血！ヤンキー先生 母校と泣いた日』義家弘介（ぶんか社）



「こんな俺でも、生きていてもいいですか？」

◀ 『腰痛、肩こり、手足のしびれ』（日本放送出版協会）



肩こり、腰痛、手足のしびれ、首の痛みなど、「背骨」がかかわるつらい痛みやしびれにどのように対処すればいいのか？ 受診の仕方や治療のポイントは？ 隠れた原因を理解し、適切な対処をするためのガイドブック。



この本 大好き！

～こども館子育て支援よちよち広場から～

四條心澄（しじょうこきよ）くん

『メイシーちゃんのさがしもの』

ルーシー・カズンズ（偕成社）

「『くだもの』など食べ物が出てくる本や『たまごのあかちゃん』が好きです。ブックスタートの絵本は喜んで見えています。下の子に読んでいるとお兄ちゃんが違う本を持ってくるので、ひとりずつに読んでますね。疲れていると感情がこもらなくなってきて...。(笑い)」



写真～向かって左が心澄（こきよ）くん
右は旬葉（ときわ）くん

新着図書

～北海道立図書館重点協力貸出図書～

『百年佳約』村田喜代子（講談社）

『アフリカの瞳』帚木蓬生（講談社）

『おどろき箱』阿刀田高（幻冬舎）

『十津川警部捜査行・みちのく事件簿』

西村京太郎（実業之日本社）

『辻斬り』押川國秋（講談社）

『八丁堀喰い物草紙・江戸前でもなし』

卵のふわふわ』宇江佐真理（講談社）

『武士（もの）のふ』松田十刻（光人社）

『空色水曜日』谷村志穂（角川書店）

『オバサンとサムライ』養老孟司 テリー伊藤（宝島社）

『涙と日本人』山折哲雄（日本経済新聞社）

『血管力をつければ病気は治る』横澤隆子（リヨン社）

『健康な家に住みたいな！』外丸裕（ロエ研究社）

『スープ&ブレッドスタイル』

スープとパンがあればいい』岡村伸彦（ゴマブックス）

『おにぎりカフェ』祐成三葉（主婦の友社）

『おとなのマナー430のQ&A』（クワッッサン）

このほかにも時代小説・推理小説・料理・園芸・絵本など新刊本多数。毎月、毎月たくさん本が入ります。

「まちのひとたち一人ひとりが一年に一冊、この本を読んで良かった」と思える本と出会える、そんなまちでありたい。」

6年目を迎えた 脳ドック検診

町では、平成11年度から中村記念病院・北海道脳神経疾患研究所の協力のもと、脳ドック検診を実施しています。この6年間で、341名の方、延べ627名の方に受診していただきました。

脳ドック検診で何がわかるの？

保健センターで行っている検診は「MRI（磁気共鳴画像）」という、磁気を用いた装置で、脳をいくつかの断面にして、脳梗塞や脳腫瘍などを早期に発見できるというものです。先月の広報で国保病院の住友院長が動脈硬化の話をしていましたが、脳ドック検診では脳の血管の動脈硬化の状態を見ることができ



また脳の大きさや副鼻腔炎などもわかります。

MRIですべての脳の病気がわかるの？

くも膜下出血は、脳の血管にできた「こぶ」がある日突然破裂するという病気です。この「こぶ」はMRIだけでは診断がつかないため、血管の形や血液の流れを見ることのできる詳しい検査「MRA（磁気共鳴血管撮影）」を勧められます。今まで中頓別でも血管にこぶが見つかり、破裂する前に手術された方がいらっしやいます。

やはり予防が大切！

検診の時には必ず専門医による「脳の病気」や「痴呆」など病気の話とその予防についての講演会が行われています。自分ではどうにもならない病気もありますが、脳梗塞や脳出血は生



健康保険 新さんの
FileNo.156
健康宅配
今月の担当は
木由紀江

病院だより

朝の冷え込みが厳しさをまして来ましたが皆さん風邪などひいてはいませんか？インフルエンザの予防接種も始まっていきますのでまだお済でない方はお問い合わせ下さい。

前回は高血圧のガイドラインが変更になったお話を致しました。今回は生活習慣病が幾つか合わさって発症するメタボリックシンドロームについてお話を致します。このガイドラインを作成されている山梨大学医学部第2内科学教授久木山先生と御一緒の仕事をされる機会に恵まれ示唆に富んだお話を伺って参りました。

生活習慣病に関して心当たりがある方は多いと思うのですが、どう言う病気がはつきりと言え

合併されている人では心臓病や脳卒中の発症率が高い事が分かり、「死の四重奏」とか「シンドロームX」などと呼ばれてきました。詳しい研究が行われた結果、肥満をベースに生活習慣病を合わせ持つ人ほど死亡率が高い事が分かり、2001年から肥満に生活習慣病を併せ持つ病態をメタボリックシンドロームと呼ぶようになりました。診断基準について簡単に説明を致します。皆さん御自身で当てはまるかチェックしてみてください。

肥満のある人…肥満度（BMI）の求め方は、肥満度＝体重（kg）÷身長²（m）で、24以上が肥満になります。または、男性で腹囲が85cm、女性で90cm以上の人を内臓肥満があると考えています。

下記の病気を2つ以上有する人…高血圧、糖尿病、高脂血症（中性脂肪が高い人）、HDLコレステロールが低い。肥満に加えて2の群に当ては

まる病気を2つ以上持つ方の心筋梗塞、脳卒中発症率は極端に高くなります。例えば中性脂肪が180以上、腹囲が90cm以上の男性は心筋梗塞になる率が健常人の3.6倍高いそうです。

メタボリックシンドローム（複数の生活習慣病を持つ人）では動脈硬化が進みやすく、動脈硬化が進んだ結果として心臓病や脳卒中になりやすくなると考えられています。検査としては心臓超音波検査（心臓の動き、心肥大を見ます）、頸動脈超音波検査（首の動脈の詰まり具合を調べます）、脈波（手足の動脈の詰まり具合と血管の硬さを調べます）、血液検査…インシュリン濃度、空腹時血糖、コレステロール、中性脂肪、LDL（悪玉コレステロール）、HDL（善玉コレステロール）、尿酸値、最後にお腹のCT検査（内臓脂肪を調べます）です。

治療の基本は肥満と生活習慣の改善、それと皆さんがお持ちの生活習慣病の治療になります。食事と運動が不可欠ですが、肥満度を1下げるには実は相当の努力が必要です。身長170cm、体

重90kgの人の肥満度は31になります。肥満度を24にするには体重を21kg減量して69kgにしなればなりません。かなりの覚悟と精神力がなければ出来ないでしょう。厳しい減量は継続が困難で途中で放棄してしまう人が多く学会でも問題になっていきます。そこで肥満学会では肥満度にこだわらない評価方法を検討中と聞いています。現在行われている方法としては目標体重を決め、それに向けて半年から1年の時間をかけて無理なく運動と食事療法を続ける事が勧められています。

生活習慣病は大人ばかりの問題ではありません。人間の味覚は幼少の頃に決まると言われています。つまり皆さんのお子さんを将来生活習慣病から守るためには今の食生活が鍵になります。お子様の食事には十分注意をなさして下さい。



中頓別国民健康保険病院
院長 住友和弘